日中友好新聞

府連通信

2026年１１月号
日本中国友好協会
大阪府連合会
〒530-0012
大阪市北区
芝田2-3-19
東洋ビル本館207
TEL06-6372-8131
FAX06-6372-8132
郵便振替口座
00970-5-8978
E-mail:info
@jcfaosaka.org
ホームページ
http://
jcfaosaka.org/

あなたの疑問に応える時事講演会
中国はいま何を考えているか

台湾問題や高市軍拡と米中関係を講演します。

11月23日(祝)2時～
大阪社会福祉会館
谷町7丁目交差点西へ80ｍ
資料代１０００円

講師：大西 広氏
京都大学名誉教授
慶応義塾大学名誉教授

講演は1月講演の台湾問題の中心論点を述べ、２度の米中会談での「合意」の特徴、それが中国の国際的キャンペーンとどうかかわっているかを述べます。

この中国の立場がフルシチョフの「平和共存」路線とどう違うのかを論じます。

日中をつなぐ文化のつどい盛会

11月3日午後、第3回「**日中をつなぐ文化のつどい**」がエルおおさか南館で１００名を超える参加で開催されました。

舞台では城北支部中国語サークルのうたごえや、若者による中国獅子舞、西支部の詩吟、中河内支部の楽器演奏、ひまわり合唱団のうたごえ、中河内支部の太極扇や西支部と東三国教室の太極拳表演、特別ゲスト劉偉さんのホーミー。中国帰国者センターの広場ダンスなど心を打つ表演が続きました。

展示コーナーには各支部の不再戦・平和活動や会員の趣味・特技の作品が展示されました。





城北支部は川柳ときりえうちわ、内藤久雄さんの満州時代の資料。

中河内支部からは万人坑・中国人強制連行などの資料と関連書籍を展示。

堺支部会員の中国・台湾の鉄道写真。長谷川テル顕彰の会からはパネルを展示しました。

きりえ美術展

49回目を迎えた全大阪きりえ美術展が、大阪府立江之子島文化芸術創造センターで10月13日から18日まで開かれました。

五つのきりえグループと個人の作家、あわせて32人が32点の大作から小品作品まで、広い会場に並べられました。

大阪府内の町並みや季節の花々、高野山や祖谷のかずら橋、北海道のポストのある町並み、イタリアの町角など、この1年見つめてきた心に残る形をきりえにしてきました。

同窓会やお孫さん、亡き友を偲ぶ心持ち、漁労労働者等々表現テーマはそれぞれに多彩です。

描きたいという気持ちはどこまでも深まり続け、きりえの可能性をくっきりと見せてくれていました。来年の50回展に向け楽しみがより広がった展示会でした。（前田 尋）



前田尋さん「カラスウリ」



近藤好幸さん「富田林寺内町」

女性部　ラブリー中国学習会
文革後の女性作家２名を紹介

文化大革命の傷跡が癒えて、女性作家が再び活躍してきます。

王安憶（おうあんおく）は、抗日運動に青春をささげた両親の反対を押し切って、農村への下放を志願します。「あの世の契り」は、自ら体験した下放生活を活かして、農村の素朴さと革命の声高さを描いています。

遅子建（ちしけん）の子ども時代は文革真っただ中。子どもの親に対する態度にも文革の影響が及ぶ時代です。「花びらの晩ごはん」は、試練を受ける両親と、時代の風潮に流されて親を批判する子どもたち、そんな家庭に静かに流れる家族愛を描いています。



11月15日（日）
13時半から
大阪府連２０５号室

王安憶『あの世の契り』と、遅子建『花びらの晩ごはん』を読みましょう。

どなたでもご参加いただけます。

西支部映画会　黒川の女　を鑑賞

西支部10月行事は映画「黒川の女」を鑑賞、満蒙開拓団にまつわる話でした。

終戦ソ連軍侵攻時、守ってくれるはずの関東軍がいない、そんな中、ソ連軍の暴行・略奪・強姦等に悩み、解決のため未婚女性をソ連軍へ差し出した。

帰国後、住民を守ったはずの未婚女性にいわれなき誹謗中傷、そっと地域を離れ声を潜めて暮した女性たち、２０１３年満蒙開拓記念館にて語り部として当時の状況を話しマスコミも報道した。

黒川４代目遺族会会長も動きました。無かったことには出来ない、事実をしっかりと伝えたい、加害・被害碑文にしっかりと書き込みました。

私個人は長谷川テル関係に注視しました。テルの最期に一緒で会った女性が15人の中に唯一元気にいる方である。現在も名前は伏しています。

しかし映画後半にはお孫さんの温かい言葉に元気をもらいお顔を出され話されました。

憲法９条を守ってほしい、ナンバーパークスで観た一人であったかもしれない。お顔観た時自然に涙が出てきた。

その後、縁有って電話でお話する機会も得た、遺族会会長さまにもお会いした、いついつまでも平和願ってお元気にいてほしい。写真は黒川村の乙女の碑。

（平松 悦雄）



百科検定学習会　政治経済を学ぶ

第20回中国百科検定が12月5日に実施されます。

府連百科検定委員会では、政治経済分野の学習会を２回行ないます。公式テキスト『中国百科』を手元に置いていただき、今の中国の姿を学んでみる学習会にしたいと思っています。

百科検定学習会日程
11月18日（水）３時～６時
大阪府連２０５教室
テーマ　政治と法
講師　高田佳誉子

11月25日（水）３時～６時
大阪府連２０５教室
テーマ　経済と産業
講師　山本恒人

中国百科検定とは？

『中国百科検定』は「日中両国の関係改善のためには、まず相手国への理解を深めることが大切」との強い思いから２０１４年３月に誕生しました。中国語の能力ではなく、中国の歴史・地理・政治経済・文化等、多方面の知識を問う、日本でも極めてユニークな検定試験です。

日中友好平和の旅　中国文明発祥の地
美食の地の山東省へ

日中友好協会和歌山県連・海南支部主催の旅（9月19日から23日）で中国文明発祥の地、文化・歴史豊かな山東省の青島・曲阜・臨沂・済南の四つの市をたずねました。

青島では「五四広場」の夜景と高層ビル群のライトアップを堪能。翌日は海岸線の美しい青島湾クルーズを楽しんだあと、内陸部の臨沂までバスで長距離移動。車窓から眺める泰山はすばらしかったです。

臨沂市では『蘭亭序』で有名な、書の聖人王羲之の旧居を見学。王羲之が筆や硯を洗ったという「洗硯池」や歴代の書家による拓本や石碑などが渡り廊下に掲げられ見どころ満載でした。



孔子博物館では副館長さんとのなごやかな交流会があり、済南では代表団８名による表敬訪問（山東省外事弁公室）がありました。

「済南」大明湖・趵突泉公園見学、水がきれいで下から湧き出ているのがはっきり見えます。湖と周りの柳がとても中国らしさを感じました。（山本 範枝）


少年 王羲之

孔子廟を見学

「青島」クルーズ船で青い海から見る青島、オリンピックセーリングセンター（２００３年北京オリンピック会場）から五四広場（１９１９年５月４日発生した人々の抗議行動）赤い色の風をメインした彫刻がくっきり見え、暗くなると夜空のもと高いビル群がネオンでカラフルに変化し、楽しい気分にさせられます。

「曲阜」孔子は春秋末期（魯の国）儒家の創始者で論語は誰もが知っています、仁、礼、受中庸を論じています。孔府、孔子廟見学、で、今回、山東省外事弁公室表敬訪問が実現しました。旅行団の84歳の丸山団長は「中国への侵略戦争で多大な犠牲と苦難を与えた。その過ちを二度と繰り返してはならない。憲法９条を守り日中友好と反戦平和のために全力を尽くしたい」と決意を述べました。昨年の高市発言で日中関係が困難な今だからこそ、実現できた日中友好平和の旅でした。（堺支部：浅田 美奈子）


王羲之旧居　「洗硯池」

帰国者二世問題で厚労省交渉

10月14日中国帰国者二世問題で厚生労働省との交渉がもたれました。

衆議院第二議員会館の会場には厚労省社会援護局中国残留邦人支援室室長補佐３名が出席。協会側は帰国者二世のみなさん、在京役員、オンラインで大阪、兵庫、広島、長崎など16か所からの参加がありました。

大阪中国帰国者センターは支援員事業予算、年度途中打ち切り問題がちぐはぐな印象を与えましたが、今回は事前に打ち合わせを行い統一感のある交渉ができました。参加者からは「とても分かりやすかった。」「行政機関の厚労省交渉も大事だが、やはり立法機関の国会への働きかけが重要。」との声が寄せられました。（石井 勉）

二年前の交渉では事前の打ち合わせがなく「口上書」と厚労省の支援は二世の実態を掌握すらしていない点が明確になりました。生活に困窮している二世に新支援法による支援ではなく生活保護を適応していることの適否については回答がありませんでした。

続いてブックレット中国「残留孤児・婦人」二世が人間の尊厳をもって笑顔で暮らしていくために「法律の改正を求めています」の要旨が浅野先生が公務で欠席のため、石井帰国者委員から代読されました。

この中で厚労省

中国の星物語 10回シリーズ　第7回
参商之隔（しんしょうのへだて）

星座早見盤をお持ちでしたら、黄帝のひ孫）に、閼伯（あつはオリオン座とさそり座を見て下さい。２つは正反対の位置にあり、同じ時間に同時に見ることができません。冬の星座、オリオン座の三つ星が参です。夏の星座、さそり座のアンタレスが商です。

『春秋左氏伝』にこのような話があります。帝嚳（ていこく：



く）と實沈（じっちん）という息子がいました。二人は仲が悪く喧嘩ばかりしていました。

帝嚳は二人が成人すると、閼伯はさそり座の赤く大きく光る一等星アンタレスの観測官として、實沈はオリオン座の明るく光る三つ星の観測官として、遠く離れた別々の場所に派遣しました。互いに対立し不和であることを表す「参商之隔」という故事成語の出典です。

魏晋南北朝のころには親友との別れを表すようになります。

唐代の杜甫の詩「贈衛八処士（えいはちのしょしにおくる）」に「人生不相見、動如参与商（人生相い見ざること、ややもすれば参と商との如し）」とあります。杜甫が華州（陝西省）に左遷される途中で、20年以上会っていなかった旧友の衛八に出会い、その厚いもてなしを受けたときの句です。参星と商星のようになかなか会えなかったのに、今日は何という素晴らしいことよと続きます。

さて、古代の人々は参星と商星を観測して春分や秋分を知り、北斗星の柄の方向で季節と時間を知りました。国立天文台のホームページは楽しいので覗いてみて下さい。国立天文台は２０２０年に軍事研究に応募しないと決めましたが、学術会議が特殊法人に変えられた今後はどうなるのでしょう。（高田 佳誉子）

城北支部総会　不再戦の志を高らかに

10月17日、第７回城北支部総会が開催され、佐藤支部長が結成して７年、皆さんの協力のもと大きく前進して総会を迎えることができ、多彩な活動に取り組むことが出来たとあいさつ。

来賓の山本府連会長から、全国でも指折りの元気な支部活動であり、全国の仲間を大きく励ましている存在だと賞賛の言葉をいただきました。

９月の「米中首脳会談」について、貿易戦争やウクライナへの対応で鋭く対立してきた両国が一端歩み寄ったと報道されていますが、中国が釘を刺した内容でもある台湾問題への対応について詳しく解説されました。

習近平総書記はトランプ大統領に「台湾独立に反対」を迫ったことについて　日本が米中の軍事衝突に巻き込まれる可能性は否定できないことになります。私たちは、「日中不再戦」をこの総会で改めて思い起こすことになりました。



総会は、西脇副支部長から議案書にもとづく活動と来期の活動方針の報告がされ、決算、予算を含め全会一致で確認しました。（粟田 三樹夫）